

学級経営尺度の作成

○松本みゆき (Christ University)

石川美智子 (常葉大学大学院)

キーワード：学級経営，教員養成課程，担任教育

目 的

学級経営について石川 (2016) は，教員養成課程の学部生には，学級経営や担任の役割を学ぶ機会がない可能性があり，教員養成段階での学級経営についての担任教育が求められていることを指摘している。そこで本研究では，今後の教員養成課程の学生及び担任教育に活用できるよう学級経営についての尺度を作成することを目的とした。

方 法

調査協力者 教員養成課程の大学生 169 名 (男 89 名，女 79 名，不明 1 名，平均年齢 21.2，標準偏差 2.37) を対象に質問紙調査を実施した。

調査内容

(1)学級経営尺度 石川 (2016) の教師経験 2 ～38 年間の 17 名の教師に対して行ったインタビュー調査の結果に基づいて，26 項目からなる学級経営尺度を作成した。回答は「いつもする (5)」から「全然しない (1)」の 5 件法で尋ねた。

(2)教師特有のビリーフ尺度 基準関連妥当性を確認するために，河村・國分 (1996) の教師特有のビリーフ尺度のうち自分 (教師自身) についての 18 項目を用いた。回答は「とてもそう思う (5)」から「全くそう思わない (1)」の 5 件法で尋ねた。

(3)教師効力感尺度 基準関連妥当性を確認するために，桜井 (1992) の教師効力感尺度のうち，個人的な教授効力感についての 9 項目と，一般的な教育効力感の 6 項目を用いた。回答は「とても

そう思う (5)」から「全くそう思わない (1)」の 5 件法で尋ねた。

(4)教育実習不安尺度 基準関連妥当性を確認するために，大野木・宮川 (1996) の教育実習不安尺度のうち，授業実践力についての 7 項目と児童・生徒関係についての 7 項目を用いた。回答は「とてもそう思う (5)」から「全くそう思わない (1)」の 5 件法で尋ねた。

結果と考察

学級経営尺度の探索的因子分析 学級経営について尋ねた 26 項目について，天井効果のみられた 7 項目を削除し，19 項目についてスクリープロットを確認したところ，2 因子構造が妥当であった。そこで 2 因子を指定し，探索的因子分析 (最尤法，プロマックス回転) を実施した。その結果，集団を作る方法などについての 9 項目と，保護者や同僚・管理職との連携についての 10 項目が得られ，前者を「個を生かした学級作り」後者を「周囲との関係構築」と命名した (Table1)。α 係数は，「個を生かした学級作り」が .94，「周囲との関係構築」が .93 であった。

学級経営尺度の妥当性の検討 学級経営尺度の基準関連妥当性を確認するために，教師特有のビリーフ，教師効力感，教育実習不安との相関係数を確認した。教師特有のビリーフでは，「個を生かした学級作り」が .48，「周囲との関係構築」が .44 であった。また，一般的な教育効力感との相関が，.25 と .19，児童・生徒関係不安との相関が，-.14 と -.15 でいずれも有意であった。

再検査信頼性の検討

学級経営尺度の再検査信頼性を確認するために，同じ調査協力者に 1 週間の間隔を開けて学級経営尺度を実施したところ，「個を生かした学級作り」の相関係数は .33，「周囲との関係構築」の相関係数は .44 でいずれも有意であった。したがって，学級経営尺度の信頼性及び妥当性が確認された。

Table1 学級経営尺度の探索的因子分析結果

項目	I	II
個を生かした学級作り		
ルールの形成・共有をし，ほめることで強化している	.1.01	-.20
児童生徒，一人一人において異なる集団の中の姿をみて，その変化に気付こうとしている	.88	-.02
子どもを活躍させる技術を持ちお互いに認め合う場づくりをしている	.82	.03
それぞれが活躍できる場を考え，学級で共有している	.73	.09
学習や集団のための教室環境整備をしている	.71	.15
子どもを活躍させる情報を収集している	.64	.22
学級開きで方針や，担任教師の長所，明るさを示し，児童生徒・保護者にイメージを作るようにしている	.49	.31
学年経営に基づき学級の方針を持ち，個と集団に方向性を持たせるようにしている	.45	.37
みんながわかる授業・楽しい授業をしている	.41	.40
周囲との関係構築		
児童生徒についてよいことがあれば，タイムリーに電話連絡や家庭訪問等で保護者に気楽に話すようにしている	-.14	.91
保護者への対応においても，児童生徒が話題の中心になるように配慮 (重視) している	-.13	.88
子どもの立場になって，一年後を想定し学級作りを考えるようにしている	.09	.71
中学年の児童生徒は，やんちゃなエネルギーを集団にいかそうとしている	.13	.64
自ら学年団に報告連絡相談し，フォローアップを受ける状況を作るようにしている	.26	.53
低学年の児童生徒は，学校生活に慣れていないため，まず集団になじませようとしている	.30	.51
必要な児童生徒には個別表を作り，手立ての検討をしている	.26	.49
学級の方針を子どもたちにも考えさせるようにしている	.35	.47
高学年は，児童生徒が自立した学級集団形成ができるよう指導している	.42	.46
数年後には自らが主任となれるよう，成長するようにしている	.23	.42
因子間相関	I	II
	1	.79